

トビウオ通信 (10月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

《 平成 14 年度下半期浮魚類中長期漁海況予報 》

平成 14 年度後期 (H14 年 10 月～H15 年 3 月) の中長期的な漁況の予測をします。

マアジ減少傾向だが 1 歳魚好調！

島根県～青森県におけるマアジ漁獲量(図 1)は、昭和 61 年以降増加傾向にありましたが、平成 10 年をピークにその後減少傾向にあります。平成 14 年 1 月～9 月までの漁獲量(34,671 トン)は、前年同期(42,534 トン)および平年(過去 10 カ年平均: 43,816 トン)をやや下回っています(前年比 82%、平年比 79%)。漁獲物は 0 歳魚 1 歳魚といった小型魚が主体となっています。しかし、島根県西部海域では例年秋に、漁獲

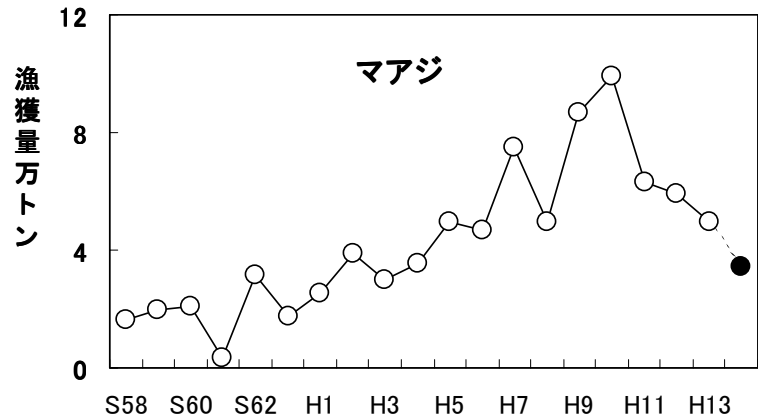


図 1 島根県～青森県におけるマアジ漁獲量の推移
H14 年は 9 月までの集計

の主体となる 0 歳魚があまり漁獲されず、1 歳魚主体に 1 隻あたり 100 トンを超えるような漁がありました。また、東シナ海における大中型まき網による今年の春～秋にかけての漁獲量は、1 歳魚主体に前年を大きく上回っており、2001 年級群の資源量は大きかったと思われます。

今後の島根県沖のマアジ漁獲量ですが、調査船による試験操業、計量魚探による分布量調査などの結果から、0 歳魚の加入状況は昨年と比べると少ないと考えられ、0 歳魚(2002 年級)の漁獲量はあまり期待できないものの、1 歳魚(2001 年級)は比較的良好であると判断され、秋以降の漁は前年並みと考えています。

マサバ小型魚主体！

島根県～青森県におけるマサバ漁獲量(図 2)は、平成 8 年以降減少傾向にあります。平成 14 年 1 月～9 月までの漁獲量(10,802 トン)は、前年同期(11,696 トン)の 92%と、前年並みとなりました。

近年のマサバ漁獲状況を見ると、まき網、定置網などで 0 歳魚中心に散発的に漁が見られるものの、継続的な漁獲(0 歳魚の爆発的な発生)や大型魚

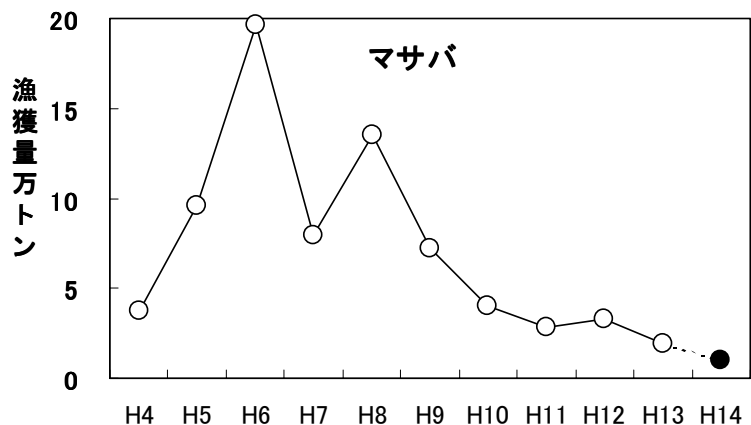


図 2 島根県～青森県におけるマサバ漁獲量の推移
H14 年は 9 月までの集計

のまとまった漁獲が見られないことから、資源水準が極めて低いといえます。卓越年級が発生しない限りしばらくは低調に推移すると思われます。

マイワシ依然低迷！

島根県～青森県までのマイワシ漁獲量(図3)は、平成5年以降減少傾向で、平成14年1月～9月までの漁獲量(284トン)は前年(225トン)をやや上回っています。太平洋海域(房総沖)では夏期を中心に比較的活発な漁もみられますが、日本海では、ほとんど獲れない状態が続いています。秋以降の漁模様ですが、資源量が極めて低水準にあるため、引き続き低調に推移すると思われます。

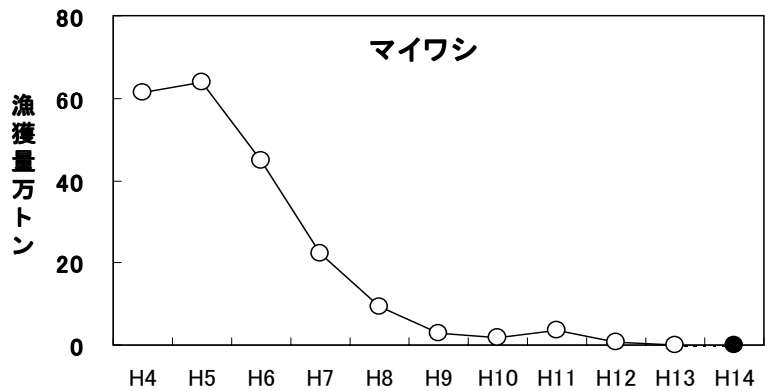


図3 島根県～青森県におけるマイワシ漁獲量の推移
H14年は9月までの集計

カタクチイワシ増加の兆し?!

島根県から青森県までのカタクチイワシの漁獲量(図4)は近年増加傾向にあります。平成14年9月までの漁獲量(15,554トン)は前年(1,783トン)を大きく上回っています。これは、3、4月に石川県、富山県でまとまった漁獲があったこと、9月に鳥取県でまとまった漁獲があったことが原因となっています。今後の島根県での漁ですが、県東部を中心に1歳魚中心に前年を上回る漁が期待されます。

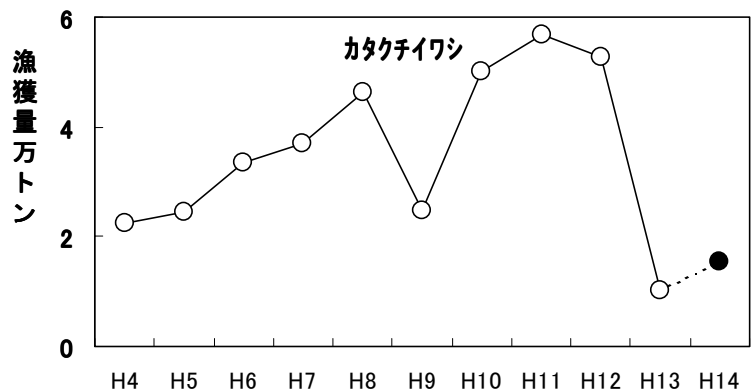


図4 島根県～青森県におけるカタクチイワシ漁獲量の推移
H14年は9月までの集計

ウルメイワシ資源低水準!

島根県から青森県のウルメイワシの漁獲量(図5)は近年低水準にあります。平成14年1月～9月までの漁獲量は2,588トンで、前年同期(1,571トン)の165%と前年をやや上回りました。島根半島、隠岐島周辺で8月に活発な漁が見られましたが、漁場が限られており、資源としては以前低水準と思われる。今後の漁ですが、秋以降冬までの漁は前年並みであると思われる。

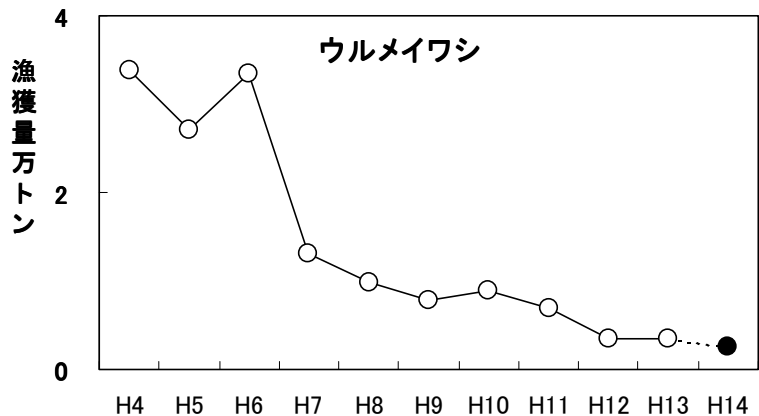
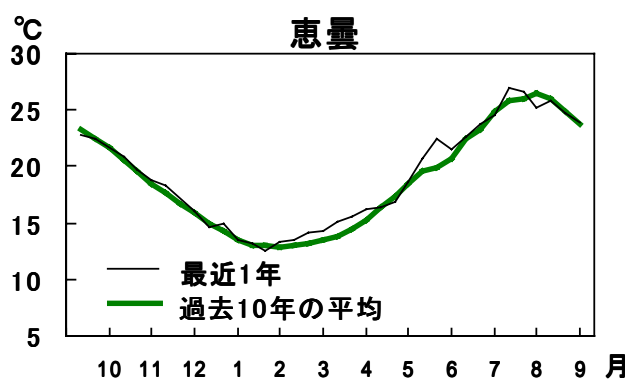
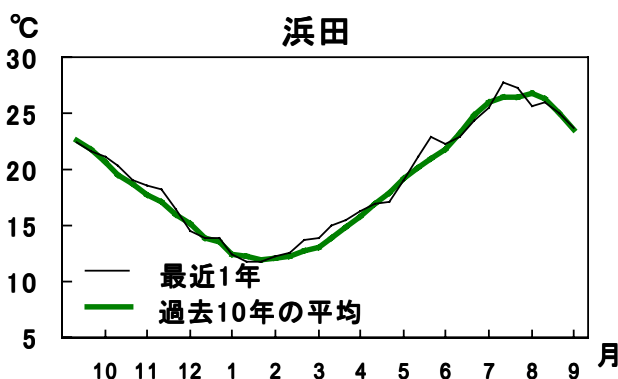


図5 島根県～青森県におけるウルメイワシ漁獲量の推移
H14年は9月までの集計

《 9月の海況 》

9月	月平均	平年差	評価
浜田	24.9	-0.1	平年並み
恵曇	24.8	0	平年並み

9月の月平均水温は8月に比べ浜田で2.0、恵曇で1.4下降しました。どちらも、平年並みとなりました。



島根・鳥取・山口県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(9/30~10/1)によると、各層の水温は、表層(0m)が22.0~24.8(平年差は-0.2~+1.8)、中層(50m)が14.0~24.8(平年差は-1.1~+4.6)、底層(100m)が7.3~21.9(平年差は-2.2~+5.7)となっています。

沿岸域の表層では先月より3前後水温が下がり、約23となりました。山口県西部沿岸域で「かなり高め」となった以外は、「平年並み~やや高め」でした。

中層及び底層では、隠岐諸島北西約75マイルに冷水域があり、先月と比較し勢力がやや弱まってきたようですが、隠岐諸島北西海域では等温線が密になっており温度勾配が急になっています。また表層同様に島根県西部から西側海域では、「かなり高め~はなはだ高め」となっていました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「平年並み~かなり高め」、中層、底層では「平年並み~はなはだ高め」となりました。

《 9月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はマアジ・ブリ・サワラ類主体に288トン、総水揚げ金額は4,865万円でした。1統当りの漁獲量は96トンで、平年(過去4カ年平均)の52%、前年の61%となりました。水揚げ金額は2,654万円の前年の159%、平年の112%となりました。恵曇では、2ヶ統の操業で、マアジ・ムロアジ類・サバ類主体に総漁獲量77トン、総水揚げ金額は2,160万円でした。浦郷ではマアジ・ウルメ・カタクチワシ主体に総漁獲量2,133トン、総水揚げ金額は9,774万円でした。1統当りの漁獲量は711トンで前年の4倍、平年の2倍、水揚げ金額は3,258万円の前年および平年をやや上回りました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカ、スルメイカを中心に329.6トンで、前年の2.4倍の漁獲量となりました。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカ、スルメイカ、ソデイカを中心に34.9トンで、スルメイカは前年の3割程度でしたがケンサキイカは前年の3倍近い水揚げとなりました。浜田に水揚げされたケンサキイカの魚体は3段~3段半が主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は400トン、総水揚げ金額は1億8,193万円、1統当たり漁獲量は57.1トン(前年比104%、平年比108%)、水揚げ金額は2,599万円(前年比87%、平年比122%)でした。漁獲の中心

はムシガレイ（前年比 156%）でした。

恵曇港の総漁獲量は 143 トン、総水揚げ金額は 8,359 万円、1 統当たり漁獲量は 35.7 トン（前年比 76%、
 平年比 79%）、水揚げ金額は 2,090 万円（前年比 81%、平年比 96%）でした。漁獲の中心はムシガレイ
 （前年比 150%）、ヤナギムシガレイ（前年比 93%）でした。

【小型底びき網漁業】

和江漁協ではキダイ、ムシガレイ、大田市漁協ではニギス、ムシガレイ・キダイ主体の漁となっています。1 航海当たり漁獲量は前年をわずかながら上回りましたが、水揚げ金額は前年を 8～12% 下回りました。両漁協ともカレイ類、キダイ、ケンサキイカは好調に推移し、特にカワハギ類は前年に比べ、和江漁協で 2.9 倍、大田市漁協で 5.2 倍の水揚げがありました。一方、ニギス、アカムツ、アナゴ類は前年を下回っています。

【定置網漁業】

県東部および県西部では漁獲量、水揚金額ともに平年と前年を下回りましたが、隠岐では平年と前年を大きく上回りました。県東部はサバ類、サワラ類、ソウダガツオが主体となっており、県西部はマアジ、ソウダガツオ、サバフグ類が主体となっています。隠岐ではサバ類が主体で漁獲量の約 6 割を占めています。その他ではカワハギ類、カタクチイワシなどの漁獲量が多くなっています。

【釣・縄】

各地区とも漁獲量、水揚金額は前年を上回りました。県西部では平年の漁獲量、水揚金額も上回りましたが、隠岐では平年を下回りました。県東部および県西部はケンサキイカが主体となっており、特に県西部では前年の約 6 倍の漁獲量となっています。その他では、県東部はサワラ類、スルメイカ、県西部はメダイ、ヒラマサなどの漁獲量が多くなっています。隠岐ではソデイカ、メダイ、ケンサキイカの漁獲量が多くなっており、メダイは前年の約 9 倍の漁獲量となっています。

漁獲統計

平成 14 年 9 月 1 日～30 日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1 隻(統)1 航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	48	マアジ・ブリ・サワラ類	6 トン	288 トン
	恵曇	30	マアジ・ムロアジ類・サバ類	2.6 トン	77 トン
	浦郷	48	マアジ・ウルメイワシ・カタクチイワシ	44.4 トン	2,133 トン
イカ釣り (5 トン以上)	浜田	1206	ケンサキイカ・スルメイカ	273Kg	329.6 トン
	西郷	354	ケンサキイカ・スルメイカ・ソデイカ	98.7Kg	34.9 トン
沖合底びき網	浜田	42	ムシガレイ	9.5 トン	400 トン
	恵曇	30	ムシガレイ・ヤナギムシガレイ	4.8 トン	143 トン
小底	大田市	333	ニギス・ムシガレイ・キダイ	665kg	221 トン
	和江	459	キダイ・ムシガレイ	720kg	331 トン
定置網	浜田	69	マアジ・ブリ・ソウダガツオ	581kg	40.1 トン
	美保関	94	サバ類・サワラ類・マアジ	705kg	66.2 トン
	浦郷	32	サバ類・カワハギ類	941kg	30.1 トン
釣・縄	浜田	1235	ケンサキイカ・メダイ・ヒラマサ	22.4kg	27.7 トン
	五十猛	495	ケンサキイカ・メダイ・マダイ	30.3kg	15.0 トン

1 隻(統)1 航海当漁獲量は総漁獲量 / 延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。